

令和7年9月25日

太田市議会議長
星野 一広 様

市民ファーストの会代表 大川 敬道

会派行政視察報告書

- 1 期日 令和7年8月26日(火) から 8月28日(木)までの3日間
- 2 視察地 北海道札幌市
- 3 視察事項 (1)北海道札幌市「札幌市役所」
～札幌市動物愛護管理センター「あいまるさっぽろ」について～
(2)北海道札幌市
～第20回 全国市議会議長会研究フォーラム～
(3)北海道札幌市
～第20回 全国市議会議長会研究フォーラム～
- 4 参加者 3名
大川敬道 神谷大輔 山水めぐみ
- 5 視察概要 別紙のとおり

札幌市動物愛護管理センター「あいまるさっぽろ」について

(1) 北海道札幌市 視察概要

【札幌市の概要】

- ・面積：1,121.26 km²
- ・人口：1,967,873 人（令和 7 年 7 月）
- ・世帯数：1,012,641 世帯（令和 7 年 7 月）
- ・市制施行：大正 11 年(1922 年)8 月 1 日
- ・一般会計予算 令和 6 年度：1 兆 2,417 億円
令和 7 年度：1 兆 2,666 億円
- ・議員定数：68 人
- ・政務活動費(議員一人当たりの月額)：400,000 円

【視察事項】

※愛称「あいまるさっぽろ」は「愛+アニマル」や「愛+まるっと」など、新センターが動物にとって幸せな施設になってほしいという思いが込められている

◇施設の概要

- ・ 開設:令和 5 年 11 月 13 日
- ・ 敷地面積:2,000 m²
- ・ 延床面積:1,073 m²(1F:629 m²/2F:371 m²/車庫:73 m²)
 - *ぬくもりのある木造建築(殺処分など悪いイメージの払しょく)
 - *省エネルギー施設(ZEB Ready 認証)
- ・ 強化機能:収容犬猫の健康維持管理、譲渡促進
 - (猫のあそび場、トリミングルーム、屋内外の運動場、隔離室、検疫室、処置室、レントゲン室)
 - :市民の学習・交流の拠点となる普及啓発
 - (多目的ホール(収容人数約 100 人)、個別相談室)
- ・ 受賞歴:グッドデザイン賞 2024 公共空間/土木/景観 分類
ウッドデザイン賞 2024 施設 ライフスタイルデザイン部門

◇取組強化

① 教育普及事業の強化

- ・ 市民向けイベント 年間全 10 回(はじめて保護猫セミナー・人とペットの災害対策セミナー等)
 - ・ 行政職員向けイベント 年間全 2 回(飼い主のいない猫対策セミナー等)
- ※来所型セミナーのみ。今まで実施の町内会・幼稚園等への出前型セミナーも継続。

② 適正譲渡の推進

～収容中の動物への対応～

- ・ 設備の拡充・・・ 処置検査室等を整備、各種検査機器、動物用 ICU など導入
- ・ 健康維持管理の方法・・・ 一社)札幌市小動物獣医師会所属の開業獣医師の往診
 - ・ 負傷動物や体調不良個体の処置(手術等)
 - ・ 1年間の処置件数:97 件

～新しい飼い主へのバトンタッチ～

- ・ 譲渡機会の拡大・・・ 土曜開庁を通年開催に拡大
- ・ 動物愛護団体との譲渡会の共同開催
- ・ SNS 等における譲渡対象動物の紹介“押し猫”
- ・ トライアル制度の導入・・・ 令和 6 年 8 月 1 日開始

③ 社会福祉部局との協力・連携

- ・ オープン前相談件数: 1 件 11 匹分
後相談件数:39 件 117 匹分

【 所感 】

あいまる さっぽろは、動物福祉の考え方と市民参加の思いが随所に感じられる、とても先進的であたたかみのある施設だった。特に印象に残ったのは、木造建築によるやさしい雰囲気の間づくりである。従来の「殺処分施設」という暗いイメージを払拭し、動物にも人にも安心できる環境を提供しようという理念が、建物そのものに表れていた。また、省エネルギー性能に優れた「ZEB Ready」認証を取得しており、環境への配慮も明確に示されていた。

施設内には、猫のプレイルームや屋内外の運動場、トリミングルーム、検疫室、処置室などが整備され、動物たちの健康を守りながら新しい飼い主につなげるための工夫が充実していた。特に、猫のカルテに「大辛・中辛・甘口」といった“人慣れ度”を示すマークが付けられていたことは、譲渡希望者にとって分かりやすく、職員の温かい工夫が感じられる取り組みだった。

また、太陽光パネルを屋根ではなく壁面に設置して積雪に対応していたことや、外気を一度地中を通してから空調に利用することで電力消費を抑える仕組みなど、地域の気候に合わせた環境技術にも感心させられた。

教育普及事業では、来所型と出前型の両方を組み合わせ、市民や子どもから行政職員まで幅広い層に学びの機会を提供していた。譲渡に関しても、獣医師会との連携による処置体制の強化、SNS での“押し猫”紹介、土曜開庁の通年化、トライアル制度の導入など、多角的な取り組みが進められていた。

さらに、社会福祉部局との連携によって、飼育が難しいケースへの相談対応も広がっており、動物の福祉と人の福祉をつなぐモデルとして注目できると感じた。

総じて、あいまる さっぽろは、動物福祉・市民教育・環境配慮・地域連携をすべて兼ね備えた施設であり、今後の地域づくりや施策を考えるうえで多くの学びを与えてくれる視察となった。



にゃんこカレー始めました

お好きな からさ(性格)の ねこちゃんをお選びください

<p>にゃんこカレー</p> <p>甘口</p> <p>人に甘えるのが好きな性格のねこです (懐かしいねこさんにも人気)</p>	<p>にゃんこカレー</p> <p>中辛</p> <p>人との距離感を大切にする性格のねこです</p>	<p>にゃんこカレー</p> <p>辛口</p> <p>人に甘えない大人な性格のねこです</p>	<p>にゃんこカレー</p> <p>激辛</p> <p>人に対して攻撃性がある性格のねこです (おとなげで、ご挨拶が苦手)</p>
---	--	---	--

※詳しい性格はスタッフまで。(猫の性格はスタッフの印象です。)
※猫の性格は環境の変化により変わることもあります。



全国市議会議長会研究フォーラム

～地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて～

〈8月27日(木)〉

○基調講演

「主権を預かる誇りと責任」 元衆議院議長 伊吹 文明 氏

○パネルディスカッション

コーディネーター:近畿大学法学部教授 辻 陽 氏

パネリスト:

東京大学教授 牧原 出 氏

読売新聞東京本社政治部次長 白石 洋一 氏

山口県宇部市議会議長 山下 節子 氏

北海道札幌市議会議長 長内 直也 氏

〈8月28日(木)〉

○課題討議

コーディネーター:関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬 稔 氏

パネリスト:

長野県岡谷市議会議長 今井 康善 氏

鹿児島県南さつま市議会議員 平神 純子 氏

石川県白山市議会議長 中野 進 氏

【 所感 】

今回の視察においては、元衆議院議長・伊吹文明氏による基調講演をはじめ、パネルディスカッションおよび課題討議を通じて、地方議会の役割と議員の責務について多角的な示唆を得ることができた。

まず、元衆議院議長・伊吹文明氏の基調講演においては、地方議員を鼓舞する内容であった。地方議会における二代表制においては、首長と議会は緊張関係にあるべきであるとし、首長は、2期・3期くらいまでは、議会に対し謙虚であるが、4期・5期と当選を重ねていくうちに、議会の意見を軽視する傾向があると指摘。議員には将来を見据えた「説得」の姿勢が求められ、主権を預かっている者としての自負を持って活動すべきであるとの提言がなされた。

議員のなり手不足の解消を議論するにあたり、まずは原点ともいべき意識に対する働きかけが重要であるとされ、その後のパネルディスカッションと課題討議に向けた理解を深める内容であった。

パネルディスカッションにおいては、札幌市議会・長内直也議長より、同市議会における「なり手

不足問題対策としての「主権者教育」の取り組みが紹介された。子どもたちに「札幌市議会」を夏休みの自由研究の題材としてもらう働きかけや、議会の年間活動を分かりやすくまとめたチラシを用いた議場見学など、具体的な事例が示された。これらの取り組みは、なり手不足の解消に向けて、時間をかけての取り組みになるが、教育委員会との連携を通じて、議会が主権者教育の主体として機能する必要性を強く感じさせるものであった。

課題討議では、岡谷市議会・今井康善議長と、白山市議会議長・中野進議長が、情報発信と市民との対話に関する実践事例が紹介された。なり手不足解消に対する第一歩として、まずは議会や議員のことを知ってもらうことの重要性を示された内容であった。

今回の視察を通じて、太田市議会としても主権者教育への着手、情報発信の強化、市民との対話の在り方について現状を見直し、今後の調査研究を深めていく必要性を改めて認識する機会となった。

